

## 令和 6 年度 校内研修実施計画書

### 1. 研究主題および教科

研究主題

主体的に学び合い、表現する子を育成する授業づくり～国語科を中心に～(4年目)

### 2. 主題設定の理由

#### 2-1 学校教育目標と研究主題との関わり

本校は、知の教育、心の教育、命と根っこの教育を通して、学校教育目標「すべての子どもたちに居場所をつくり、生きる意欲を育む」の実現に向けた教育活動を推進している。知の教育においてこれまでの研究や実践と学校教育目標との関わりは次のようである。

##### ○ 主体的に学び合う 「8つのたい」

「見たい」「知りたい」「考えたい」「伝えたい」  
「聴きたい」「読みたい」「書きたい」「活用したい」

子ども達が、安心できる関係の中で、「○○したい」という意欲をもって教育活動に取り組むことで、自分のもつ力を発揮し、高め合ったり、認めたり認められたりする経験を重ねることができると考える。主体的に学ぶ姿勢が身につくことで、自信をつけたり、集団の中で手ごたえを感じたりすることができ、やがては自分の居場所を実感できる子どもに育つのではないかと考えられる。

##### ○ 表現する

自分で考えたことや仲間との対話を通して感じたことや学んだことを伝え合ったり、聴き合ったりすることで、自信を深めたり、仲間とのつながりをより強く感じたりすることが期待できる。こうした経験の継続によって、自ら学ぶことや仲間と関わることへの意欲が高まり、やがては生きる意欲を育むことにつながると考える。

#### 2-2 学習指導要領が目指すものと本校の研究の関わり

学習指導要領では、今の子どもたちやこれから生まれてくる子どもたちが成人して社会で活躍するころには、わが国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想している。そして、その時代を生き抜くために、学校教育では、子ども達が様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値づけにつなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

こうした中で、私たち指導者が教育活動全般を通して意識していきたい柱を次のように述べている。①「何を理解しているか、何ができるのか（生きて働く「知識・技能」の習得）」②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力。判断力・表現力等」の育成）」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）であ

る。

これらをバランスよく育成すること、そしてそのためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められているといえる。

主体的な問題解決につながる学習課題を設定することや、自分の考えをもち、表現し合うことを通して学びを深める学習活動の追究など、本校が行っていきたい研究の流れは、学習指導要領の示す授業改善の方向性と一致するものであると考える。

したがって、本校児童の実態を踏まえた具体的な実践を通して、学習指導要領の具現化への方策を吟味・検討していきたい。

### 2-3 今年度の研究について

研究の切り口となる教科は、昨年度と引き続き国語科とする。国語科は、子ども達が言葉による見方・考え方を働かせ、様々な言語活動を通して、国語で正確に適切に、そして豊かに表現できるようになることを目標とする教科である。

これまでの研究で培ってきた「学び合い」を土台とし、日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使えるようにするとともに、日常生活における仲間との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことができれば、主体的に学び、表現することの喜びを感じられる子ども達を育成することができると考えるからである。

また、今年度は中学校区の人権授業発表が当たっているため、人権教育についても並行して研修を進める。知の教育と愛の教育の両輪で子どもたちの学びを支えていく。

## 3. 研究内容及び方法

### 3-1 昨年度までの取り組みと成果

1年目は、主題にある「主体的にい学び合い表現する子を育成する授業づくり」について実践するとともに、「学びの基盤となる力や言葉の力を育む指導や手だて」について各学級の取り組みを交流し、成果を共有することができた。

2年目は、「指導内容の学年間の系統性を意識した授業づくり」を重点に、つきたい力を確認した上で指導を進められるようにするために、単元構想シートを活用した。また、単元を貫く言語活動を意識した学習計画を立てることによって、児童も指導者側も見通しをもって進められるように取り組んだ。低中高の3つの発達段階の授業を参観し比較することで、子ども達の学年に応じた学びの系統性を実感することができ、既習学習を活用して学びを積み重ねていくことの大切さを確認することができた。

3年目にあたる昨年度は、領域を説明文に絞り、「学年間の系統性を踏まえたうえで、その単元の指導事項を、子どもたちが主体的に学ぶことができるための工夫」について授業研究を行った。全体提案の授業では、授業力UP5★に基づき、「振り返り」に書かせたいことから逆算して学習活動やめあてを組み立てることが重要であることを、全体で確認することができた。また、指導に関わる全教員が「単元のめあて・指導事項」「具体的な取り組み」「成果と課題」についてGoogleスライドにまとめ、研修会で交流した。この機会を通して、他学年の学習内容を知ることができたとともに多くの実践に触れることができ、指導者自身の学びを深めることができた。

昨年度の児童アンケートの結果では、「勉強はわかりますか。」の質問に対して肯定的に答えた割合は、7月が87%、12月は91%だった。また、「自分の思ったことや考えたことを、進んで書いたり発表したりしていますか。」の質問では、7月は74%、12月は82%が肯定的に評価しており、アンケートの結果からは子どもたちがより主体的に、学びに向

かうことができるようになってきたといえる。全体提案の授業では、どの学年も主体的に学ぶことができるための手立てを工夫し、全員が参加できるように、「個人の考えを持つ→ペア（グループ）に伝える→全体発表」という流れが作られていた。このような実践の日々の積み重ねが、成果につながったと考えてもよいだろう。

### 3-2 今年度の具体的な研究について

前述のように、今年度は人権教育についても並行して研修を進めていく。昨年度までの実践で大切にしてきた「全員が参加」「考えをもち、伝える、受け止める」ことは、主体性を育むための手立てであると同時に、仲間づくりにおいても土台となるものである。

今年度の研修について話し合う中で、物語文は、より多様な見方や考えを持ちやすいのではないかという意見が出た。また、説明文での実践を生かして、物語文での実践を交流したいという声が多く上がった。これらをふまえ、昨年度までの実践で得た成果を生かしつつ、今年度は物語文を中心に実践を進めていく。

## 《授業研究》

自分の気持ちや考えを言葉で表現し、仲間とつながり、学びを深め合えるための指導の工夫

- ◎単元の指導事項を確認したうえで、子どもたちが、主体的に自分の考えをもちたい、仲間に伝えたい、仲間の考えを聞きたい、と思えるような課題や手だてを工夫する。
- 今年度から教科書が新しくなり、昨年度までに比べて、子ども達がより見通しをもって学習を進めやすくなっている。「ふりかえろう」には、単元の指導事項に関わる項目が書かれている。単元の終わりに子ども達からどのような言葉を出させたいかを考え、そこから逆算して授業を組み立てる。ただし、「ふりかえろう」の内容をそのまま課題として提示するのではなく、「ふかめよう」「まとめよう」に取り組むことで、結果として「ふりかえろう」でまとめたい力を達成できている状態をめざす。
- 全員が参加できるようにするために、まずは本文を根拠に自分の考えをもつ時間をきちんと保障し、その上で交流する。その際は、教師もしっかりと子どもの意見を受け止め、意図をもって意見をつなげていく。（教師の出場）
- 各学年で、授業を見合ったり板書を見せ合ったりするなどして、学年としての授業力の向上を図る。板書やノート、子どもの様子や発言などを記録に残しておき、実践を Google スライドにまとめ、学期末に交流する。
- ◎仲間の考えや思いを受け止められるようにするために、国語の時間に限らず、「聞く」ことを重点項目として取り組む。「聞いてくれている」という安心感の中で話せるように、また、仲間の考えを「聞きたい」と思えるように子ども達をつなげていく。

## 《全教科・活動を通した学びの基盤》

### ①話す

- ・指名されたら、「はいっ」と返事をして起立して発言する。
- ・「～です。」「～だと思えます。」等、単語ではなく文の語尾まで話す。
- ・伝える相手を意識して（目を見る、体を向けるなど）、伝わる声の大きさ、速さで話す。
- ・考えの説明には、「まず、次に、そして、だから」などの言葉や、学習用語を用いて説明する。
- ・「いろいろな」などではなく、具体的な例を挙げて話す。
- ・考えを述べるときは理由も添え、「理由は」と「～からです」をセットで話す。

※個々の児童に配慮し、形式的な指導にならないように注意する。

## ②聞く【重点項目】

【メモをとらせる・発言に対する問い返し・関連図書などの読み聞かせ】

- ・集中して話が聞ける環境を整える。( unnecessaryなものは片づける、手を膝に置いて姿勢を正すなど)
- ・「聞き方名人」の活用

※個々の児童に配慮し、形式的な指導にならないように注意する。

※指導者が話すときは、速度に気を付けながら、簡潔に話すように気を付ける。

- ・次の表を参考に、具体的な語彙を示して指導する。

スキル		具体的な子どもたちの言葉や必要な語彙
共感的な反応(あいづち)ができる。	共感	「うんうん」「なるほど」「え、そうかな」等
聴いたことをリピートできる。	反復・再生	「〇〇さんは、～と言っていたでしょ」等
聴いたことを受けて自分なりの答えが言える。(Yes、Noを含む。) 聴いたことを受けて、話ができる。	選択・比較 類推・展開	「私はその意見に賛成で、～だと思います」 「私はその意見と違って～と思います」 「今の意見を聞いて、私は～だと思いました」等
聴いたことの中から、伝えたいこと(要点)をとらえ、わかりやすく話すことができる。	要約 焦点化	「つまり、〇〇さんの言いたかったことは～だと思います」等
聴いたことを生かして、自分の考えをまとめることができる。	発展 深化	「みんなの話を聴いて、私は最初と意見が変わって、～について～と考えました」等

## ③読解力の向上

根拠となる言葉や文に線を引いたり、ノートに書きだしたりして意識させる。特に中学年ぐらいまでは、動作化を入れることによって、言葉の意味をとらえたり状況をつかむことができたりするなど、理解を深めることができる。

読解の第一歩として、音読指導に丁寧に取り組む。

- ・間違えずに、すらすら正しく読む。(レベル1)
- ・言葉のまとまりを意識しながら、「、」や「。」に気を付けて読む。(レベル2)
- ・言葉の意味や、登場人物の気持ちを考えて、それを音読で表現する。(レベル3)

## ④語彙力向上(ひらがなカタカナ指導・国語辞典・ことばの宝箱の活用)

指導者自身が言葉に敏感になり、表現力を高め、子ども達にいろいろな言葉と出会わせていく。暗記ではなく、書く活動の時に言葉の宝箱などを活用させ、伝わりやすく豊かな表現ができるように育てたい。

- ・新しいひらがなを習う際に、そのひらがなを使う言葉集めをしたり、漢字ドリルに出てくる熟語の意味を確かめたり調べたりする。
- ・国語辞典を引くことで語彙を増やし、一つの言葉にもいろいろな意味があることがわかる。
- ・同じページに載っている他の言葉に出会うことで、さらに語彙を増やすことができる。
- ・国語辞典活用例：意味調べ、コトバト、辞書を読書、ペアで辞書引きしりとり 等
- ・教科書巻末の言葉の宝箱を印刷や掲示するなどして、書くときに活用できるようにする。
- ・言葉の宝箱に載っている言葉の意味を調べたり、その言葉を使った例文を作ったりする。

### ⑤読書の量と質の向上

- ・毎週月曜の朝学の時間を、読書の時間に設定する。一週間の始まりを落ち着いて過ごす狙いもある。
- ・図書巡回指導員と連携しながら、関連図書の読み聞かせをしたり、学年貸出をしたりして、児童が手に取りやすい環境を整える。
- ・PTAと連携をし、学級文庫の充実を図る。
- ・お家で読書、読書郵便など、図書委員会の活動も交えながら取り組む。
- ・貸し出しの時に、その児童の入学からの貸し出し冊数の総数を伝えたり、学習に関連した本がどこにあるかを示したりすることで、意欲につなげる。
- ・2冊の貸し出しのうち1冊は、9分類（物語）にするよう声をかける。

### ⑥ICT活用

- ・授業での効果的な活用法について、実践を交流する中で模索していく。

### 年間計画 5月22日（水）現在

一学期	4月 4日（木）学級開き・授業開きに向けて 学習規律について 5月22日（水）研究方針・具体的方策等について 6月 各学年、物語文の単元を重点単元として授業実践 7月 6月の各自の実践をスライドにまとめる。 8月 5日（月）校内研修会 実践の交流、学調・みえスタの分析より
二学期	11月～12月 物語文で、学年部提案授業（指導案作成） 11月20日（水）指導主事招聘 12月 2学期の各自の実践をスライドにまとめる
三学期	1月10日（金） 2学期の実践の交流、総括に向けて 2月26日（水） 研究の総括 3月末 来年度の方針

### めざす子どもの姿

- ・「知りたい！考えたい！」という意欲をもち、「分かった！生かすことができた！」という実感を得るために、まず自分の考えをもち、仲間に伝えたり、仲間の考えを聴き合ったり読み合ったりする活動を通して、自分の思いや考えを見直したり、確かなものにしたりする子
- ・自ら生活経験や既習事項を振り返り、問題解決への姿勢を高めたり、学び合いを通して得た実感や理解から、後の学習への関心を広げ、課題を見いだして、自ら学びをすすめたりする子